

研究テーマ

生徒の学習意欲を高め、勤労観・職業観を育むキャリア教育の推進
 ～夢と目標を持って自己の進路を切り拓く生徒を育成する体験学習プログラムの開発～

P

【生徒の実態】

- ① 教科学力では、各種学力テストの全国通過率を上回っているが、表現力、思考力において課題が見られる。
- ② 進路成熟尺度の検査では、係活動(役割遂行)などに積極的に参加しており、「自己実現的態度」の強い生徒が多い。しかし、自己の将来に見通しをもって計画を立て、実行に移し評価するという「進路計画」や「進路決定」に関する意欲や態度が十分身に付けているとはいえない。

【到達目標】

学年指導目標		人間関係形成能力	自他の理解能力	自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重することができる。
1年	夢を持つ	情報活用能力	コミュニケーション能力	他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとすることができる。
			情報収集・探索能力	生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用することができる。
2年	夢を語ろう	将来設計能力	職業理解能力	体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いを理解することができる。
			役割把握・認識能力	日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解することができる。様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考えることができる。
3年	夢の実現に向かって歩みだそう	意思決定能力	計画実行能力	将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高めることができる。
			選択能力	自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとするすることができる。
			課題解決能力	課題に積極的に取り組み、主体的に解決しようとするすることができる。

【目指す生徒像】

夢と目標を持って、自分の未来を切り拓く生徒

【キャリア教育全体計画等】

キャリア教育全体計画をもとに、キャリア教育単元系統図、各学年キャリア教育学習計画、単元ごとの指導計画・学習指導案を作成して、キャリア教育を推進する。(竹原中学校キャリア教育プランV2)

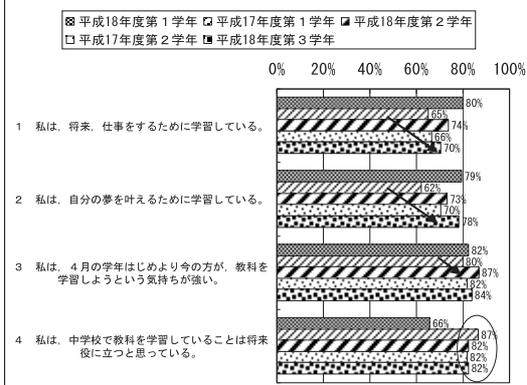
A

【竹原中学校キャリア教育プランV2の改善】

- ① 授業改善の推進
生徒の思考力を高め、生徒が理解できたと感じる授業づくりを推進する。
- ② 家庭学習の習慣化
生徒の家庭学習の習慣化を図るために、「家庭学習の手引き」を作成し、学習の仕方を指導する。
- ③ 教科等の有機的な連携
体験活動で経験した内容を教科等に関連づける。
- ④ 各指導計画の見直し
各学年の指導内容や3年間を通した指導内容に重複している部分を検討する。
- ⑤ 4領域8能力を評価する方法の開発
- ⑥ 保護者の方の当事者意識を高める取組みの推進
- ⑦ 地域の企業及び諸団体との連携の充実
職場体験での生徒の変容等を分かりやすく広報すること、職場体験マニュアルの充実を図る。

C

学習の意義についての意識変化



【課題】

- ① 「授業が分からない」と回答している生徒が約2割おり、学習の習慣化と授業改善を行う必要がある。
- ② 体験学習における目標などの意識化を更に深めるために、教科等の有機的な関連を見直す必要がある。

D

体験的な学習活動の学習プログラムの実施上の留意点（改善のポイント）

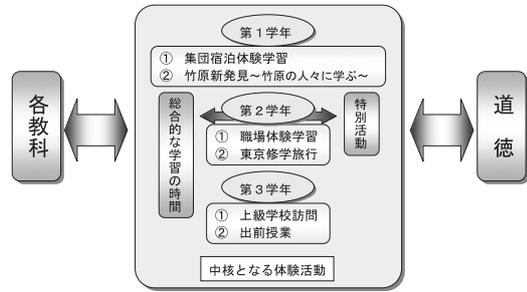
① 教科等間の有機的な関連

学習指導要領等をもとに、「キャリア発達に関わる諸能力」8つのうち、教科等で培う資質能力と関連させて、重点的に指導する能力を決めて指導する。

4領域	8能力	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健	英語	道徳	総合	特活
人間関係形成能力	自他の理解能力	○				○			○	○	○	○
	コミュニケーション能力	◎				◎	○	◎	◎	○	○	○
情報活用能力	情報収集・探索能力		○	○	◎							○
	職業理解能力											○
将来設計能力	役割把握・認識能力		○						◎			○
	計画実行能力						◎					○
意思決定能力	選択能力		◎				○					○
	課題解決能力		◎	○			○					○

② 中核となる体験活動の設定

教科・総合的な学習の時間・道徳の時間・特別活動（学級活動・学校行事）を中核とする体験活動を媒介にして有機的に関連させる。

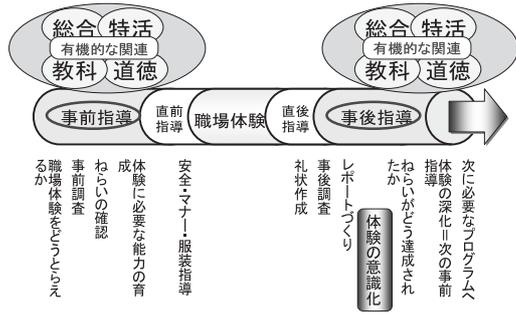


③ 体験活動の事前・事後指導の充実

体験的な活動を一過性の活動にせず、その後の子どもの生活や意識の変容に十分つなぐため、明確な目標のもとに、事前指導において体験活動の意義をしっかりと理解させる。

また、事後にまとめの話し合い、発表会等を計画したりするなど、事前・事後指導の充実を図る。

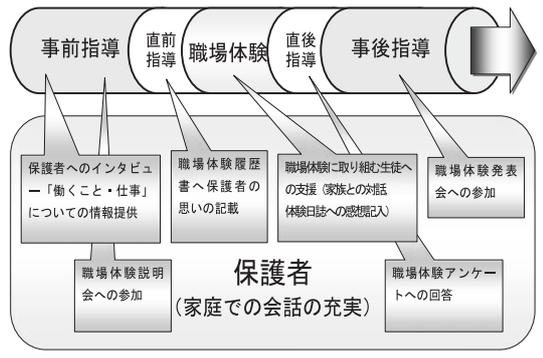
事前学習と事後学習の充実



④ 保護者の当時者意識の高揚

保護者は生徒の親であり、時には体験先事業所等の経営者や従業員でもある。

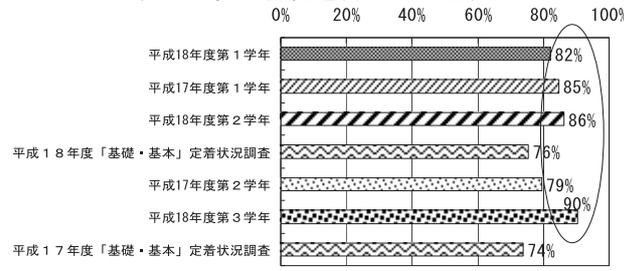
キャリア教育を進めていく際、保護者に当事者意識を持って学校と一緒に生徒への指導にかかわっていただいている。



C

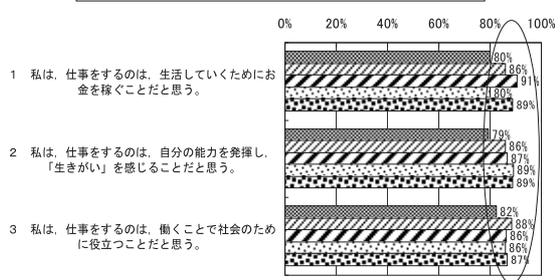
生徒を対象に実施したアンケート結果

将来の夢や目標を持っている。



働く意義についての意識変化

■ 平成18年度第1学年 □ 平成17年度第1学年 ■ 平成18年度第2学年
□ 平成17年度第2学年 ▨ 平成18年度第3学年



【成果】

- ① 学習の意義及び働く意義についての理解が深まり、学習意欲が向上した生徒が増加した。
- ② 自己理解が深まり、将来への夢や目標を多くの生徒が持つようになった。